



関東森林学会ニュースレター

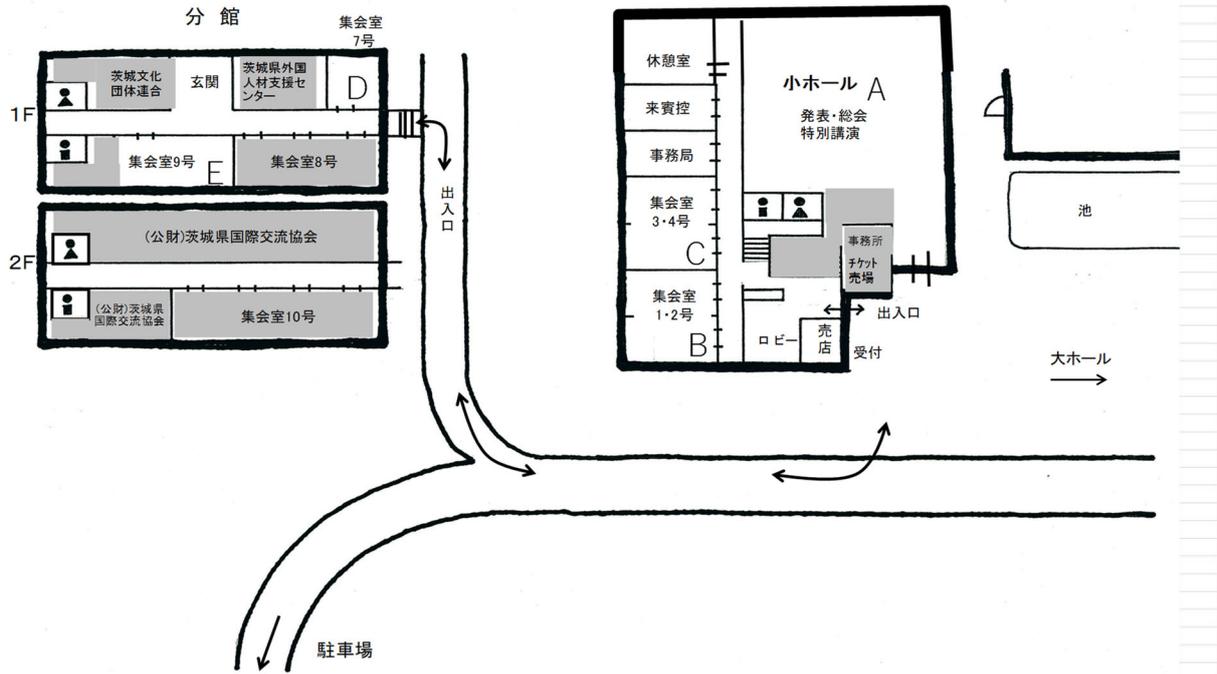
関東森林学会事務局

第14回関東森林学会大会のご案内

- 開催日 令和6（2024）年10月30日（水）
- 会場 ザ・ヒロサワ・シティ会館（水戸市千波町東久保697番地）
アクセスの詳細：<https://www.ibarakiken-bunkacenter.com/access/>
※お車でお越しの方は、会場内の駐車場をご利用ください。
- 日程 受付 9：15～
研究発表 9：45～16：15
総会 12：00～13：00（小ホール）
特別講演 13：15～14：15（小ホール）
演題：放棄された民有人工林はどこにある？
どこから手を付ける？どうする？
ー市町村の意思決定を支援するツールの開発を
目指してー
演者：鷹尾 元 氏（森林総合研究所関西支所長）
- 発表会場と発表部門

会場	午前	午後
小ホール	経営	総会・特別講演・経営・風致・生理
集会室1・2号	造林	造林
集会室3・4号	特用・動物	育種・樹病
集会室7号	防災	防災・生態・立地
集会室9号	利用	利用・林政
和室	休憩室	休憩室
集会室5号	事務局	事務局
集会室6号	来賓控	来賓控

会場案内図



※各発表部門の時間割は、発表プログラムでご確認ください。

※お弁当等の手配はいたしません。

※和室を休憩室とします。荷物等を置かれても構いませんが、紛失等の責任は負いかねますのでご了承ください。

● 研究発表に関する注意点

※要旨集・プログラムを印刷・配布いたしません。各自、関東森林学会ウェブサイト (<http://www.kantoforest.jp/>) にアクセスの上、ご持参ください。

※研究発表の座長は輪番制です。次ページの発表プログラムでご確認ください。

※配付資料がある場合は、各自で必要数をご持参ください。

※Windows10 に Microsoft PowerPoint をインストールした PC を各会場に準備いたします。使用される方はファイルを格納した USB メモリーをご持参下さい。その際、ウイルス対策を万全によりしくお願いいたします。また、事前に動作確認をして頂くようお願いいたします。

※PowerPoint で投影される方は、午前の発表の方は9:30までに、午後の発表の方は14:15までに、各会場のPCにファイルをコピーしてください。ファイル名は、以下の例のようにお願いします：例： 経営1_〇〇〇〇.ppt (〇〇〇〇は氏名)

※発表時間は12分、質疑応答は2分30秒の計14分30秒です。時間厳守でよろしくお願い致します。

● 発表プログラム

開始時間	終了時間	小ホール(A)		集会室1・2号(B)		集会室3・4号(B)		集会室7号(D)		集会室9号(E)		和室1号	集会室5号	集会室6号
		講演者	座長	講演者	座長	講演者	座長	講演者	座長	講演者	座長			
9:45	10:00	経営1	経営6	造林1	造林8	特用1	動物3	防災1	防災8	利用1	利用8			
10:00	10:15	経営2	経営1	造林2	造林1	特用2	特用1	防災2	防災1	利用2	利用1			
10:15	10:30	経営3	経営2	造林3	造林2	特用3	特用2	防災3	防災2	利用3	利用2			
10:30	10:45	経営4	経営3	造林4	造林3	特用4	特用3	防災4	防災3	利用4	利用3			
10:45	11:00	経営5	経営4	造林5	造林4	特用5	特用4	防災5	防災4	利用5	利用4			
11:00	11:15	経営6	経営5	造林6	造林5	動物1	特用5	防災6	防災5	利用6	利用5			
11:15	11:30			造林7	造林6	動物2	動物1	防災7	防災6	利用7	利用6			
11:30	11:45			造林8	造林7	動物3	動物2	防災8	防災7	利用8	利用7			
11:45	12:00													
12:00	12:15													
12:15	12:30	総会												
12:30	12:45													
12:45	13:00													
13:00	13:15													
13:15	13:30	特別講演												
13:30	13:45													
13:45	14:00													
14:00	14:15													
14:15	14:30													
14:30	14:45	経営7	生理2	造林9	造林15	育種1	樹病2	防災9	立地1	利用9	林政4			
14:45	15:00	経営8	経営7	造林10	造林9	育種2	育種1	防災10	防災9	利用10	利用9			
15:00	15:15	経営9	経営8	造林11	造林10	育種3	育種2	防災11	防災10	利用11	利用10			
15:15	15:30	風致1	経営9	造林12	造林11	育種4	育種3	生態1	防災11	林政1	利用11			
15:30	15:45	風致2	風致1	造林13	造林12	育種5	育種4	生態2	生態1	林政2	林政1			
15:45	16:00	生理1	風致2	造林14	造林13	樹病1	育種5	生態3	生態2	林政3	林政2			
16:00	16:15	生理2	生理1	造林15	造林14	樹病2	樹病1	立地1	生態3	林政4	林政3			

● 口頭発表題目

分野	発表題名と所属
林政	
林政1	散居村地域の屋敷林維持政策の経緯と現状－富山県砺波市を例として－ 王じてつ・柴崎茂光・古井戸宏通(東大)
林政2	ユネスコエコパーク登録による取組と林業振興への活用 松本創平・山下詠子(東京農大)
林政3	市民活動を主体とした都市域のナラ枯れ防除体制の確立に向けた取組について 宇都木景子・前川直人・鈴木孝典(茨城県林技セ)・松本剛史・北島博(森林総研)
林政4	林業作業における安全行動と技術習得に関する意識－アンケート調査結果から－ 田中亘・笹田敬太郎・猪俣雄太・高山範理・御田成顕(森林総研)・片田陽菜・山口広子(筑波大学)・都築伸行(林野)
風致	
風致1	野外教育研究者がみる演習林の活用方法－日本大学藤沢演習林の事例－ 杉浦克明(日大)・大石康彦(森林総研多摩)・山田亮(北海道教育大)
風致2	昭和初期の山村集落の年中行事にみる木本類の利用実態～岩手県一関市夏山地区と横沢地区の事例～ 園原和夏(日大)・佐藤鉄将(岩手県)・杉浦克明(日大)
経営	
経営1	航空機LiDARデータによる林分平均形状比・収量比数・相対幹距の推定に関する検討－茨城県・福岡県の一部地域の事例－ 西園朋広・田中真哉(森林総研)・高橋與明(森林総研九州)・齋藤英樹(森林総研)・福本桂子(森林総研九州)
経営2	航空機LiDARデータによる樹冠長の推定に関する検討－福岡県久留米市の事例－ 齋藤英樹・田中真哉・高橋正義・西園朋広(森林総研)・高橋與明(森林総研九州)
経営3	Consideration of breast height on DBH measurement under changing full body height Christian Paul Kolonel, Sospeter Mkombo, Satoshi Yoshino, Takayoshi Sato (Tokyo University of Agriculture)
経営4	森林生態系多様性基礎調査データを用いたスギ人工林の林分構造評価 宮本麻子(森林総研)
経営5	多摩産材利用拡大フェアにおける出展事業者の特徴 坂井洸・佐藤孝吉(東京農大)

- 経営6 ふもとっぱらにおける自然体験イベントの可能性 –東京農業大学学生を対象としたアンケート調査を事例として–
佐藤孝吉・竹田悠悟(東京農大)
- 経営7 環境情報と空間解析によるヤナギ超短伐期施業の適地評価 –千葉県印西市、宮崎県都農町のポテンシャルと課題–
高橋正義・北原文章(森林総研)・鄭峻介(森林総研北海道)・早船真智(森林総研関西)・大森聡(筑波大)
- 経営8 71年生アカマツ人工林の成長経過と間伐の影響
細田和男・西園朋広・北原文章・田中真哉・小谷英司(森林総研)
- 経営9 デジタル航空写真によるスギ林の林分パラメータの広域推定手法の開発
小谷英司(森林総研)

造林

- 造林1 福島県相馬地方の放置林における間伐の実施とその後の植生変化
上原巖(東京農大)
- 造林2 スギ特定母樹の自然交配種子から生産された苗木(特定苗木)の生育特性に関する試験
前川直人・宇都木景子・鈴木孝典(茨城県林技セ)
- 造林3 シカ柵の点検・補修コストの要因分析とコスト予測シートの開発
安藤博之・平尾翔太・仲田昭一(関東森林管理局)・中山優子(茨城森林管理署)・飯島勇人(森林総研)
- 造林4 早生樹ウラジロエノキに対する穿孔性被害の発生について：石垣島の事例
竹中浩一(国際農研セ)・数井宏(自営業)
- 造林5 異なる立地に植栽したヤナギに対する豚の尿由来の液肥の効果
香山雅純・高橋正義(森林総研)
- 造林6 コナラ苗におけるツリーシェルターの効果
百田楓太・山崎俊・安部哲人(日大)
- 造林7 ツリーシェルターによるクヌギ苗への効果の検討
山崎俊・百田楓太・安部哲人(日大)
- 造林8 間伐の速やかな効果の有無を予測する指標
壁谷大介・宮本和樹・榎間岳・荒木真岳(森林総研)・山川博美(森林総研九州)・鶴崎幸・萩原晟也・檜嶋康二(福岡農林試)
- 造林9 マレー半島に植栽された在来樹種の成長と木部形質の関係
田中憲蔵・河合清定(国際農林水産研究セ)・米田令仁(森林総研四国)・Azani Mohamad Alias(マレーシアプトラ大)・Nur Hajar Zamah Shari(マレーシア森林研究所)
- 造林10 サクラさし木の生存および発根に対する二酸化炭素施用の効果
岩本宏二郎(森林総研多摩)・勝木俊雄(森林総研九州)
- 造林11 緩効性肥料の施用位置がスギ実生コンテナ苗の生育に及ぼす影響
阿部森也(茨城県林技セ)
- 造林12 ヤマガワ水挿しにおける底部の処理条件の違いが発根におよぼす影響の検討
戸田翔子・田中恵・上原巖(東京農大)
- 造林13 養分不足のスギコンテナ苗に対する秋施肥が耐凍性に及ぼす影響
飛田博順・原山尚徳・上村章・香山雅純・齋藤隆実(森林総研)
- 造林14 クマイチゴが繁茂したスギ大苗造林地における下刈り方法の検討
飯田玲奈(群馬林試)
- 造林15 皆伐再造林地における獣害防止ネットの管理方法の確立
山田勝也(群馬林試)

育種

- 育種1 無花粉スギ「心晴れ不稔シリーズ」の開発
畑尚子・奈良雅代・宮下智人・中村健一(東京農総研)・久保田将之(東京都三宅支庁)・斎藤真己(富山県農技セ森林研)・齋藤央嗣(神奈川県自然保セ)・袴田哲司(静岡県農技研森林研セ)・大平峰子・田村明(森林総研林育セ)
- 育種2 仕様の異なるカメムシ防除袋がスギ種子の発芽率に与える影響
室紀行(埼玉県寄居林森林研)
- 育種3 関東育種基本区におけるマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツの着花性
大平峰子(森林総研林育セ)・木村恵(秋田県立大学)
- 育種4 1年生コンテナ苗の生産に向けた培土と肥料の検討
向井愛美(千葉県農林総研森林)
- 育種5 複数樹種における花粉発芽の自動認識による事業の効率化の検討
武津英太郎・千葉一美(森林総研林育セ)・恩田まこ都(森林総研林育セ九州)

生理	
生理1	森林樹木における葉の他感作用が植物実生の成長に及ぼす影響 丸山真依・田中恵・上原巖(東京農大)
生理2	分布降水量が異なるフタバガキ科稚樹4種における乾燥応答と形質の関係 河合清定(国際農研)・Kevin Kit Siong Ng・Soon Leong Lee (マレーシア森林研究所)
生態	
生態1	個体ベースモデルを用いたマレー半島におけるフタバガキ人工林の成長シミュレーション 諏訪鍊平・Mohammad Shamim Hasan Mandal・田中憲蔵・野口正二(国際農林水産研究セ)・大谷達也(森林総研四国)・星野大介(森林総研)・Zamah Shari Nur Hajar (マレーシア森林研究所)
生態2	落葉広葉樹二次林における枯死木の動態 長池卓男(山梨県森林研)
生態3	九州南部の常緑広葉樹二次林の林分構造および種組成の林齢による変化 五十嵐哲也・佐藤保(森林総研)
立地	
立地1	連年施肥を受けたウダイカンパ・トドマツ林における葉の炭素・窒素安定同位体比の経時変化 長倉淳子・古澤仁美・中下留美子(森林総研)・伊藤江利子(森林総研関西)・橋本徹(森林総研北海道)
防災	
防災1	本川流域の降雨流出特性が支川流域の内水特性に及ぼす影響— 筑後川流域と寒水川流域の関係を事例として— 本田尚正・堀佑菜(東京農大)
防災2	広葉樹林における火災発生危険度の特性 玉井幸治・後藤義明(森林総研)
防災3	Hotspot analysis of natural disaster damages in Vietnam Tetsuya Michinaka, Ronald C. Estoque (FFPRI), Tan Phuong Vu, Thuy My Linh Nguyen (VAFS), Takashi Okamoto, Makoto Ehara (FFPRI)
防災4	流木の停止条件式を用いた数値シミュレーション手法の開発 鈴木拓郎・経隆悠(森林総研)
防災5	流木混じり土石流を捕捉する森林における間伐の影響の検討 岡田康彦(森林総研)・長井斎・丸田龍一郎(CTIリード)
防災6	アトウェルソタ地区における崩壊地源頭部の拡大崩壊に及ぼした水文特性 浅野志穂(森林総研)・D.M.D.S. Dissanayake (NBRO)
防災7	東京農業大学奥多摩演習林狩倉沢流域における表層土壌の透水性と植生および地形との関係 佐藤貴紀・酒井美瑛・橘隆一(東京農大)
防災8	立木密度・林齢・降雨パターンから見る森林樹冠遮断メカニズム 西原加織・白木克繁・Mahpara Shahzadi (農工大)
防災9	対照流域法で必要な基準期間の年数について—釜淵森林理水試験地を事例として— 久保田多余子(森林総研)・阿部俊夫(森林総研東北)・小田智基(森林総研)
防災10	冷温帯と暖温帯に植栽されたブナの飽差に対する気孔コンダクタンスの応答特性 山田陸・小坂泉・千本松武秀・早川大・佐々木大和・鈴木実蓉・前野遥希・岡優太・瀧澤英紀(日大)
防災11	浸透数値計算による、白坂流域の0次谷における崩積土のバッファ効果検証 山崎菜々子・森貞完太(農工大)
利用	
利用1	群馬県における確率年を用いた降雨評価による過去19年間の林道災害分析 有賀一広・渡部逸晴・小林諒(宇都宮大)
利用2	福島県いわき市における皆伐再造林の収支分析 小嶋笑実・保上稜典・高木幹太・有賀一広(宇都宮大)
利用3	モンゴルにおける欧州型CTL導入による枯死木未利用材利用可能量推計 高木幹太・有賀一広・池田勇太・石栗太(宇都宮大)・白澤紘明(森林総研)・Biligt Battuvshin・Ganbaatar Chultem (MUST)
利用4	機械学習による森林バイオマス安定供給のための伐採計画手法の構築に関する検討 王い恒・吉岡拓如・金鉉倍(東大)
利用5	グラフ畳み込みネットワークを用いた森林の空間特性解析に基づくグループ化した林分伐採手法に関する研究 尤陽宇・金鉉倍・吉岡拓如(東大)

利用6	伐木作業における熱中症リスクの定量化 中田知沙(森林総研)・板谷明美(三重大)・野田晋一・渡邊由一・櫻木隆満(森林技術総合研修所林機セ)・山口浩和・猪俣雄太(森林総研)
利用7	スギコンテナ苗生産におけるスギ材破碎チップの代替培土としての利用可能性 飯泉佳世(埼玉県寄居林森林研)
利用8	林業従事者の労働負荷について 小澤雅之(山梨県森林研)・武居正道(山梨県峡南林務)
利用9	群馬県における林道台帳と確率年を用いた降雨評価による林道災害分析の課題 長岡凌太・吉川裕示・有賀一広・渡部逸晴・小林諒(宇都宮大)
利用10	日本全国におけるセミトレーラと欧州型CTL導入を考慮した未利用木材利用可能量推計 山田真輝・有賀一広・藤井絢弓・松岡佑典(宇都宮大)・斎藤仁志(岩手大)・酒井明香(北海道総研)・白澤紘明(森林総研)・鈴木保志(高知大)
利用11	UAV由来のDSMを用いた地形情報生成の試み 亀山翔平(東京農大)
動物	
動物1	簡易なニホンジカ捕獲技術の実証試験 松山元昭(埼玉県寄居林森林研)
動物2	山梨県の亜高山帯におけるコメツガ稚樹へのニホンジカの摂食の影響 林耕太(山梨県森林研)
動物3	野外ソメイヨシノにおける振動によるクビアカツヤカミキリの産卵制御 衣浦晴生(森林総研)・高梨琢磨(森林総研東北)・松島一司(足利市)
樹病	
樹病1	群馬県水上演習林のギンリョウソウモドキの鱗片葉から分離された内生菌 松倉君予・深谷美羽・上村真由子・太田祐子(日大)
樹病2	異なる感染様式の根圏および非根圏土壌における放線菌の出現傾向 田中恵・小山純平(東京農大)
特用林産	
特用1	ニオウシメジ菌床栽培における袋栽培法の有用性の検討 栗原敬博・小林久泰(茨城県林技セ)・関根直樹(茨城県県南農林事務所)
特用2	菌性冬虫夏草類ハナヤスリタケ(<i>Tolypocladium ophioglossoides</i>)の培養特性について 佐藤大樹(森林総研)
特用3	ホンシメジ菌根苗の林地植栽条件の検討 小林久泰・倉持眞寿美(茨城県林技セ)
特用4	トリュフ菌定着苗木の植栽において苗木の定着に必要な土壌環境条件の検討 古澤仁美(森林総研)・仲野翔太(元森林総研)・中村慎崇(森林総研九州)・野口享太郎(森林総研)・山中高史(森林総研東北)
特用5	コナラおが粉を培地基材としたナメコ菌床栽培におけるコーンコブミール培地のエノキタケ廃菌床による培地基材置換率の検証 清水達哉・島津桃子(新潟県森林研)

●「関東森林研究」第76巻への投稿論文原稿の募集

関東森林研究は原則として大会において発表された論文を対象に編集します（編集委員会運営規則第3条）。第14回関東森林学会大会で研究発表される方は、発表内容を論文または速報として投稿することができます。投稿を希望される方は、投稿原稿等の必要書類を大会ページから電子投稿して下さい。投稿原稿の提出期限は11月15日（金）とします（注記）。注記：総会で承認された場合、投稿規定に「学生会員は原則として共同著者に正会員を含めなければならない」が追加されます。

（1）原稿の電子投稿

提出物：

- ①論文原稿：電子ファイル1部（PDF）または、速報原稿：電子ファイル1部（PDF）
- ②英文原稿の場合、英文校閲済の証明書

提出先：<http://www.kantoforest.jp/>

投稿に関する問い合わせ：

日本大学生物資源科学部森林資源科学科

関東森林学会 編集委員会（安部哲人）

TEL：0466-84-3768 FAX：0466-84-3676

E-mail：abe.tetsuto@nihon-u.ac.jp

（2）原稿作成上の注意

原稿作成に際しては、関東森林学会ホームページ（<http://www.kantoforest.jp/>）の投稿規定および最新の執筆要領にしたがい、提出前に最新の投稿チェック表で十分に確認した上で提出して下さい。投稿連絡表の提出は不要です。投稿者情報をWeb上に記入して下さい。審査は「関東森林研究」投稿原稿審査要領にしたがって行います。投稿規定、執筆要領を満たしていない原稿は受け付けませんのでご注意ください。また、原稿作成においては上記ホームページ上に掲載している、最新の原稿テンプレート（第76巻用）を必ず使用して下さい。ご協力のほどよろしく申し上げます。

（3）原稿審査

投稿規定、執筆要領を満たしていることが確認された原稿について投稿を受け、担当の審査員を決定して審査を開始します。審査の結果、修正を要すると判断された場合は、著者に修正稿の提出を求めます。提出期限までに修正稿が提出されない場合は、投稿を取り下げたものとみなします。なお、第76巻は2025年3月末に第1号、7月末に第2号を印刷発行する予定です。

事務局連絡

● 関東森林学会 第14期（2024年度）第1回幹事会議事録

【日時】2024年6月5日（水）15:00～17:00

【場所】Teamsによるオンライン会議

【出席】（順不同，敬称略）

（都県幹事）新井（東京），今井（栃木），長池（山梨），鈴木（茨城），松本（群馬），宮崎（埼玉），笹川（新潟），齋藤（神奈川），宇川（千葉）

（国機関幹事）青井（森林総研，本所）

（大学幹事）瀧澤（日本大），有賀（宇都宮大），田中（東京農業大），白木（東京農工大），吉岡（東京大）

（学会事務局）有賀（会長），瀧澤（副会長），林（会計，宇都宮大），鈴木（大会，茨城），田中（監査，東京農業大），逢沢（総務，宇都宮大），安部（編集，日本大），白木（HP，東京農工大）

【欠席者】田村（森林総研，林木育種）

【書記】逢沢（総務，宇都宮大）

【事前配布資料】

資料-1 2024年度（第14期）役員および機関幹事

資料-2 関東森林学会則別表

資料-3 第13期（2023年度）会計決算報告書

資料-4 2023年度学会大会（於：山梨県）決算報告書

資料-5 第14期（2024年度）予算計画書

資料-6 2025年度以降の体制（会長，副会長，総務・会計，編集，行事）

資料-7 2024年度表彰

資料-8 学会刊行物

資料-9 機関幹事のいない大学の学生の発表

資料-10 日本森林学会大会の開催機関の推薦方法

【議事】

1. 会則第9条に基づく第14期（2024年度）会長等役員を選出（総務担当理事，資料1）

- ・会長 有賀一広（宇都宮大学）
- ・副会長 瀧澤英紀（日本大学）
- ・総務担当理事 逢沢峰昭（宇都宮大学）
- ・会計担当理事 林 宇一（宇都宮大学）
- ・行事担当理事 鈴木孝典（茨城県林業技術センター）
- ・編集担当理事 安部哲人（日本大学）
- ・総務担当理事補佐（HP担当） 白木克繁（東京農工大学）

- ・監査 田中 恵（東京農業大学）
- ・幹事の交代（茨城県、埼玉県、新潟県、千葉県、東京大学）

事務局の提案の通り、役員と幹事が承認された。

2. 会則別表の機関名の改正と総会への提案（総務担当理事，資料2）

旧）埼玉県農林総合研究センター森林・緑化研究所

新）埼玉県寄居林業事務所森林研究室

事務局の提案の通り、会則の別表の改正案が承認され、10月30日の総会に諮ることとなった。

3. 第13期（2023年度）会計決算報告（会計担当理事，資料3；本ニュース p.12）

会計担当知事より説明があり、事務局の提案の通り承認された。

4. 2023年度学会大会（於：山梨県）決算報告（前行事担当理事，資料4）

前行事担当理事より説明があり、提案の通り承認された。また、今年度の水戸大会への引継ぎに関連して、以下の報告があった。

- ・実行委員会16名（会員3名、アルバイト雇用なし）
- ・参加費は徴収しなかったため、事務的負担は少なかった
- ・到着時間が事前にわかれば、来賓（日本森林学会、日本森林技術協会）の控室やお弁当があってもよかったかもしれない

5. 第14期（2024年度）予算計画（案）（会計担当理事，資料5；本ニュース p.13）

会計担当知事より説明があった。予算の明示化や決算書に協賛金の費目があることから、協賛金を予算収入に入れたほうがよいのではとの意見が出た。また、支出の部の大会運営の費目の備考欄の「（協賛金を含む）」を削除したほうがよいとの意見が出た。これまで慣習的に予算収入の部に協賛金を含めてこなかったが、2025年度予算案から予算収入に入れる（例えば、予算案作成時で協賛金が未確定の場合は、0円で計上）方向で検討することとし、今年度については、支出の部の大会運営の備考にある「（協賛金を含む）」を削除することを条件に承認された。修正予算書は議事録とともに送付することとなった。

6. 2024年度学会大会（於：茨城県）開催方針（行事担当理事，資料なし）

行事担当理事から今年度大会の準備状況について以下の説明があり、提案の通り準備を進めることが承認された。

- ・開催日程と会場：10月30日（水）・ザ・ヒロサワ・シティ会館（水戸市）（JR水戸駅から徒歩10分ほど）
- ・開催方法：対面のみ
- ・特別講演：鷹尾先生（森林総研関西支所長）「管理優先度の高い森林の抽出と管理技術の開発（仮）」

- ・現時点で参加費徴収はない予定

7. 第2回幹事会の開催日程（総務担当理事）

大会2週間前の10月16日（水）13:00～14:30にTeamsにて開催することが承認された。

8. 2025年度以降の体制（会長、副会長、総務・会計、編集、行事）について（総務担当理事、資料6）

会長・総務・会計、副会長・編集

- ・2023～2024年度（宇都宮大学・日本大学）
- ・2025～2026年度（日本大学、森林総研）（提案）
- ・2027～2028年度（森林総研・東京大学）（予定）

学会大会会場担当

- ・2025年度千葉県（提案）、2026年度神奈川県（提案）、2027年度埼玉県（予定）

以上の事務局の提案の通り、承認された。

9. 2024年度表彰（副会長、資料7）

表彰担当の副会長より説明があり、提案の通り、承認された。

10. 学会刊行物について（総務担当理事、編集担当理事、資料8）

- ・学会ニュース、学会大会プログラムは冊子印刷を廃止し、HPのみで公開した。
- ・論文集「関東森林研究」75巻はオンライン発行を完了
- ・学会ニュース・プログラムについては、今年度もHPのみで公開することが承認された。
また、編集担当理事から75巻の発行完了について説明があり、問題なくオンライン発行できたことが報告された。今年度も76巻をオンライン発行することが承認された。

11. 機関幹事のいない大学の学生の発表（総務担当理事、資料9）

以前に機関幹事のいない大学から学生の発表の希望があった。学会の発表や投稿論文の質の担保の点から学生のみでの単独発表を制限する一方で、特段の事情（指導教員との関係など）も考慮できるよう、会則の第3条2項の学生会員の項と「関東森林研究」投稿規定の第1項の改定を事務局から提案した。

- ・会則の第3条2項の学生会員の項

「・・・大会参加申し込みをしたもの。なお、発表は原則として正会員との共同発表に限る。学生会員の資格は・・・」

- ・「関東森林研究」投稿規定の第1項

「投稿（筆頭者）は、関東森林学会会員に限る。ただし、筆頭者以外の共同著者には非会員を含むことができる。なお、招待論文についてはこの限りではない。学生会員は原則として共同著者に正会員を含めなければならない。」

上の事務局の提案の通り、会則の改正案について承認され、10月末の総会に諮ることとな

った。投稿規定については、本日付け（2024年6月5日）で改定することが承認された。

12. 幹事機関からの会費振り込みの手数料の自己負担（会計担当理事）

会計担当理事より、今年度から会員費振込時における手数料を振込側負担で統一したい旨の提案があった。また、提案の背景について説明があり、手数料の振込側負担で統一することが承認された。

13. 日本森林学会大会の開催機関の推薦方法（総務担当理事，資料10）

これまで大会開催を担ってきた関東地区の地方大学は定員削減、学部改組等により、所属教員数が減少の一途を辿っており、単独開催が極めて厳しい状況になってきている。そのため、事務局として以下の案について意見交換したい。なお、大会開催機関の推薦方針（ローテーションや推薦基準）については、関東森林学会が決める必要があることを日本森林学会に確認済み。

案1：関東地区開催機関のローテーションに森林総研（本所・林木育種センター）を組み込み、国際会議場、またはこれまで開催実績のない県や会員数の少ない大学と連携して開催する（千葉大学園芸学部、山梨大学生命環境学部、高崎経済大学、高崎健康福祉大学等）

案2：関東地区開催機関のローテーションに森林総研（本所・林木育種センター）を組み込んだ上で、会員数に応じたローテーションにする（会員数の多い機関ほどローテーションを短くする）

案3：一般会員数が9名以下の場合は、関東森林学会として、大会開催機関として推薦しない

総務担当理事より提案の背景についての説明があった。資料10の日本森林学会員数が正しいかと質問があり、総務担当が日本森林学会に確認することとなった。また、森林総合研究所をローテーションに加えるのかどうかについては、当該機関会員への検討依頼の流れや内容を含め、当該機関幹事と事務局で十分調整したのちに検討依頼を出すこととなった。また、日本森林学会学術大会運営規則には、日本森林学会理事会は、当該地区にある共催学会に大会開催機関の推薦を依頼し、これを受けて、当該共催学会が、当該地区に所属する代議員と協議して大会開催機関及び開催会場を内定し、その結果を会長に報告することとなっているが、この決め方についても、実情を踏まえて改定していく必要があるとの意見があった。

報告

- ・日本森林学会より2026年3月の大会開催機関の推薦依頼があった。事前に内諾を取った上で、関東森林学会として、筑波大学主催・森林総研協力（大会会長は上條隆志先生）で推薦した
- ・学会HPで第58巻から第75巻までオンライン化した。第74巻と75巻については、今後、各記事が個別にみられるようにインデックス化される。リンクのずれなどの修正や改善事項があれば白木HP担当まで知らせるよう依頼があった。

<http://www.kantoforest.jp/papers/papers.html>

第13期会計決算報告書

第13期（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

収入の部

	費目	第13期予算	決算	差額	摘要
1	前年度繰越金	5,851,063	5,851,063	0	
2	会費	920,000	812,438	-107,562	行政機関会費¥30,000-を含む
3	賛助会費	0	0	0	
4	論文集売却	30,000	20,000	-10,000	
5	別刷り等	800,000	510,000	-290,000	関東森林研究74
6	雑収入	2,000	50	-1,950	利息
7	協賛金	0	100,000	100,000	日本森林学会、日本森林技術協会
8	返還金	0	0	0	
	合計	7,603,063	7,293,551	-309,512	

支出の部

	費目	第13期予算	決算	差額	摘要
1	ニュースレター印刷	0	0	0	ニュースレターメール配信
2	論文集	700,000	534,655	-165,345	関東森林研究74
3	大会運営	500,000	468,847	-31,153	第13回関東森林学会大会
4	編集費	30,000	0	-30,000	
5	旅費幹事会	0	0	0	
6	会議費	0	0	0	
7	通信費	50,000	22,660	-27,340	切手等（注：添付資料）
8	消耗品	50,000	310	-49,690	文具等
9	表彰費	100,000	24,650	-75,350	表彰状と図書カード
10	手数料	10,000	4,620	-5,380	振込手数料
11	謝金	10,000	0	-10,000	
12	HP管理費	50,000	18,440	-31,560	2022(第12期), 2023(第13期)年度分
13	予備費	6,103,063	0	-6,103,063	
14	繰越金	0	6,219,369	6,219,369	昨年度比+368,306円
15	合計	7,603,063	7,293,551	-309,512	

現財産

総収入	総支出	差額
7,293,551	1,074,182	6,219,369

財産内訳

栃木銀行	6,212,060
現金	7,309
合計	6,219,369

上記の通り学会運営の収支決算を報告いたします。

令和 6 年 5 月 29 日 事務局（会計担当理事） 林 宇一



監査の結果、上記の通り相違ありません。

令和 6 年 5 月 30 日 監査

田中 恵



第14期会計予算案

第14期（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

収入の部

	費目	第13期予算	第14期予算	差額	摘要
1	前年度繰越金	5,851,063	6,219,369	368,306	
2	会費	920,000	920,000	0	行政機関会費¥30,000を含む
3	賛助会費	0	0	0	
4	論文集売却	30,000	0	-30,000	廃止
5	別刷り等	800,000	0	-800,000	廃止
6	雑収入	2,000	2,000	0	利息、バックナンバー販売
7	返還金	0	0	0	
	合計	7,603,063	7,141,369	-461,694	

支出の部

	費目	第13期予算	第14期予算	差額	摘要
1	ニューズレター印刷	0	0	0	メール配信
2	論文集	700,000	0	-700,000	オンライン発行
3	大会運営	500,000	500,000	0	第14回関東森林学会大会
4	編集費	30,000	30,000	0	関東森林研究75
5	旅費幹事会	0	0	0	オンライン開催
6	会議費	0	0	0	オンライン開催
7	通信費	50,000	50,000	0	会費請求書発送等
8	消耗品	50,000	50,000	0	
9	表彰費	100,000	100,000	0	第14期表彰分
10	手数料	10,000	10,000	0	
11	謝金	10,000	10,000	0	
12	HP管理費	50,000	50,000	0	
13	予備費	6,103,063	6,341,369	238,306	
	合計	7,603,063	7,141,369	-461,694	

関東森林学会第14期事務局

学会長：有賀一広（宇都宮大学）

学会副会長：瀧澤英紀（日本大学）

総務担当理事：逢沢峰昭（宇都宮大学）

総務担当理事補佐（HP担当） 白木克繁（東京農工大学）

会計担当理事：林 宇一（宇都宮大学）

行事担当理事：鈴木孝典（茨城県林業技術センター）

編集担当理事：安部哲人（日本大学）

監査：田中 恵（東京農業大学）

連絡先 〒321-8505

栃木県宇都宮市峰町 350

宇都宮大学農学部森林科学科（逢沢峰昭）

TEL：028-649-5531 E-mail：aizawam [あっと] cc.utsunomiya-u.ac.jp

振込口座 栃木銀行 陽東桜が丘支店（店番号 063）

普通預金口座 1111256

口座名義 関東森林学会 会長 有賀一広（カントウシンリンガツカイ カイチョウ アルガカズ ヒロ）

入退会の連絡は、会計担当の林宇一（uichi [あっと] cc.utsunomiya-u.ac.jp）にお願いします。